

中間評価の結果が返ってきていると思いますが、その結果を見て、どのような思いを抱いていますか？勉強の成果が出て「よっしゃー！」と思った人もいれば、「勉強したのに、どうして結果が出なかったのだろう。」という人もいます。

以前、山と谷の話をしたのを覚えていますか？自然界に山と谷があるのと同じように、私たちの心にも山と谷があります。シンプルに考えると、結果が出た人は、“山”におり、思うような結果が得られなかった人は“谷”にいるということになりますね。ここで忘れないでほしいことは、“山と谷はつながっている”ということです。それがどれだけ高い山なのか、あるいは、どれだけ深い谷なのかは分かりませんが、今自分がいる場所での過ごし方次第で、誰も“山”に向かうことができると思います。今回の中間評価の場合で考えると、結果が返ってきたあとの取り組みが大切になります。



『僕たちの“夢のつかみ方”をすべて語ろう！』という素敵なタイトルの本を読んでいると、“「苦労量」と「感動量」は比例している”という言葉に出会いました。苦労すればするほど、そこから得られる感動が大きいという意味です。例えば、いきなりヘリコプターで富士山頂に降り立って見るのと、苦労して登り切って見るのとでは、そこにある景色は同じでも、そこから得られる感動は異なると思います。頂上が見えているのになかなかたどり着かない、もしかしたらたどり着けないかもしれない、高山病になるかもしれないなどの思いを抱きながら、それでも一步一步登っていくことに大きな価値があるような気がします。



皆さんが日々取り組んでいる学習や部活動等も同じだと思います。日々の学習、練習は決して“楽なこと”ではありません。“苦労すること”ばかりです。そういった苦労の中にこそ、感動や楽しさがあるのではないのでしょうか。

今朝のスポーツニュースで、サッカー日本代表の本田圭祐選手が「最後まで絶対あきらめないで、自分の信念を貫く。」と言っていました。あきらめず、苦労を重ねた先に、大きな感動があるのだと思います。

幸せとは、楽をすることではなく、苦しいことの先にこそ達成感があり、充実感があり、感動があるということに気付くことなのかもしれません。

「僕たちの“夢のつかみ方”をすべて語ろう！」(大嶋啓介、中村文昭)